Graded Direct Method Association of Japan

News Bulletin

第32号

英語教授法通信

1980年11月1日

[BASIC English 50周年記念号]

発行:G D M 英語教授法研究会 事務局 〒154 東京都世田谷区豪徳寺 2 −27−19 吉沢美穂方 TEL 03/429−5929 編集:原田 弘・川上いと子・昆布孝子・中郷安浩・小高一夫

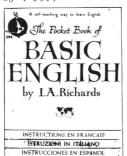
GDM と BASIC English — 昔ばなし

吉沢美穂

いつも目先のことを考えるのに精一ばいて 過去を振りかえることをあまりしない私です が、この記念号のために、ハーバード留学時 代のノートなどを取り出してみると、忘れて いたことをいろいろ思い出しました。今回は、 遠い昔のことを書くことにします。

1947 年に、チャベルさんを通して、私がは じめてG D M に出合った時のテキストは、 Learning the Basic English (LEL) でした。1945年にハーバードでリチャーズが、 LELをやめて Pocket Book 版の新らしい テキストを出したので、リチャーズが日本に 来た時(1950)には、私も P B を使つていま した。この P Bが、現在の E T P の初期の本 ですが、その名は The Pocket Book of Basic Englishでした。(写真)

この本の内容は、 PP.77と79で、John とMary がお金を拾つ てから、まずワインで 乾杯してから、何を買 おうかと相談すること になつている以外は、 現在のETPとほとん ど同じです。John と Maryの乾杯は、相当あ とまで続いていました



TRUCCES IN PORTUGUE

が、どこからどんな反対が出たのか、何となく付け足しのような、無駄なような現在の 2 ページになって、実は私は、がっかりしたものです。 ハーバード時代のノートに、LELをFB にかえた理由が書いてありました。 要約すると次の通りです。

- o LELの最初の文は、This is I.で、 これは不自然。動詞は、I give this pencil to you と現在形から導入されて いるが、これも不自然。The を教えないと this、thatだけでは不自然なのでPB では早く導入した。
- o LELでは疑問形はBook 1 では教えないのをPBでは早く導入して、先生にとって教えやすくした。
- PBでは、何回も同じ形の文をくりかえ すことで、自然に定着するようにした。
- o P、Bは絵が多いので自習ができる。
- 全体としてPBは、生徒にとっては登る 坂が急になったが、先生にとっては教えや すくなった。

話をBEに戻しましょう。このPBの本の 名まえのためか、私もずい分あとまで度々、 「GDM?ああ BASIC Englishですね」 と言われ、GDMはBEを教えるのが目的では ないと、むきになって説明したものです。こ れと同じことがアメリカでもあったためか、1950年頃、本の名まえが現在のEnglish Through Picturesになりました。 1951年に私が留学した時は、アメリカでも、外部に対してはGDMとBEは別のものであるとの宣伝に努めていた時でした。

けれども、GDMとBEが深い関係にあることは事実で、私が受けた授業でも、BEが相当の割合を占めていました。Basic English and Its Uses や Learn-ing Basic English などが教材で、練習問題はもちろん、full English の書きかえ、BEでの作文などをやりました。今でもできないようなむずかしい論文の訳、日本の昔話、人類が月に行った10年以上も前に書いた月旅行の話などの成績物が残っています。その中に、今見ると恥かしい英語の誤りが、ギブソンの手でなおしてあるところを見ると、当時の私の英語力のだめさかげんがわかります。

学校を卒業して、箱入り娘、箱入り奥さんで、英語とは関係のない生活の後、戦後英語を教え始め、GDMのとりこになった私は、留学生試験もLELやETPだけの英語で通りぬけたので、その頃私が使いこなせた英語は、BEの範囲を出ないものだったと思います。けれどもGDMの実技のほうは、残っているteaching planや、他の人のクラスを見てのreportにも、"先生のしゃべり過ぎ"など、今でも書きそうなことが書いてあり、相当進歩していたようです。

けれども、BEについては、初心者で、前に書いた教材にも、はじめてお目にかかり、BE

についての本当の理解もなく、<u>ことば</u>について考えたこともなく、ただ夢中でやっていたようです。Root senseやmetaphoreについて考えるようになったのは、ずっと後のことです。つまり、私のGDM、BEとの関係は、まずリストを見せられて説明を聞くという"教え込まれた"形ではなく、実際にGDMで教えることが相当うまくできるようになり、BEを使いこなせるようになってから、理論を知るという、理想的な形だったわけです。

ノートを見ると、リチャーズの意味論も、本人から講義を受けた証拠がありますが、この 貴重な経験があまり記憶に残っていないのは、 私のことばについての考えが、そこまで達していなかったからでしょう。何とも、もったいないことをしたものです。

1952 年にハーバードから帰つて、日本での G D M 活動を始めたわけですが、その頃はまだ、G D M 即ちB E ではないということを世間に知らせることが必要だったのです。その 頃、室先生のグルーブが、B E の活動をしていらっしゃることは知りながら、近付くことをしなかったのは、そのためだったと思います。

それがいつの間にか、今の状態になって安定したわけです。其の後私は、別に努力して勉強もせず、誰も教えてくれたわけでもないのに、自然とある表現が英語的であるかないかがわかり、ことばのroot sense などが感じとれるようになって来たのは、自分でも不思議でなりません。

これは、升川さんや片桐さんの勉強の結果 を横から吸い取ったり、室先生のおかけと感 謝しています。

Spring Seminar, 1981のお知らせ

ト キ : 1981年3月27日 (金) ~ 30日 (月)

トコロ : YMCA六甲研修センター

申込先 : 〒543 大阪市天王寺区南河堀町111

大阪南YMCA GDMセミナー係

(TEL. 06-779-8361)

BASIC English 特集

BASIC Englishと英作文

室勝

Ogdenの BASIC Englishの語表を はじめて見てまず感じることは、どうしてこ んな語がはいつていて、こんな語がないので あろうかという、単純な疑問です。この単純 な問いの中に、実は BASIC Englishの たいせつな性質がかくされているのです。わ たしの場合もそうでした。1932年頃、岡倉由 三郎によつてはじめてこの組織が日本に紹介 されたとき、同じような疑問を強くいだきま した。そのうちに BASIC English の基 本図書のひとつABC of Basic Englishが日本でも買えるようになり、その訳 本も出て、組織として BASIC English の大要は、いちおう理解はしましたが、その 中の一語一語について考えてみると、それら が語表にはいつている理由や、それまで当然 重要だと思つていた語が見あたらないわけが わからず、さまざまな細かいけれども、今か ら考えてみると、かなり、たいせつな疑問が頭の 中を去来しました。50年近くたった今でも、 語表の中のどの語かについて、それをOgden が重要であると考えた理由について、わたし はまだ問いを発しつづけています。

人間の言語能力について心理学者の言うことが正しいとすれば、日本人であるわたしたちにとつては、生得的言語習得能力は、12才頃までに、日本語という象徴体系の知識または技能のかたちで具体化されたものに取って代られているわけです。ですからわたしが、たとえば BASIC Englishで何か言おうと

すれば形のととのつていない内言としての日本語でまず思考し、それが外言化するとき、BASIC Englishの形をどると考えられないでしようか。これは少し短絡的な説明の仕方であることはよく承知していながらも、わたしはどうしてもこういう説明の仕方を乗てることはできない気がします。そのように感じているというよりほかにいいようのない内的経験があるわけです。

ここでたいせつであると思うのは、明文化され、文法的にも慣用的にもしつかりした日本語を始点として、その中の語や句とparallel な語や句を BASIC Englishの中から探して書くのではないということです。

以上は、何も BASIC Englishで書くばあいたけではないであろうと言われるかもしれませんが、何千かの語が使えるfull Englishですと、明文化された日本語をたよりとして、それの部分部分に対応すると自分で考えている語句を英語の中からみつけ出し、それに置きかえたいという心的誘惑に打ち勝つととはむずかしいものです。このことが英作文練習の方法として、和文英訳によることが批難される大きな理由であろうと考えます。しかし、BASIC Englishで書く練習からはじめることで、この望ましくない傾向に対抗するのが比較的に楽になることはたしかです。

Ogdenはしばしば、自分が何を言かうとしているのか、はっきりわかっていさえすれば、普通のことなら何でも、BASIC English で言うことができると主張していまずが、これは BASIC Englishの本質になれていることばですから、いつも頭にない

てい、必要があります。

はじめに BASIC Englishの各語の存在理由を問いつづけていると言いましたが、その答えは、ただ語表をながめていても、辞書をひいて考えて見ても出てきません。
BASIC English を使つてみよう、BASIC English で文を書いてみようと努力してみること以外に答えは得られません。 The Basic Words という本などをたよりとして、自分で書いてみて、すなわち体験把握によつてのみ、BASIC Englishの持つ力が、単に知識としてではなく、一種の智恵となつて、はたらき出してくれます。これを、これをできていて、英語による表現というもっと大きい分野に出て行くことをお勧めします。

BASIC English 添削教室

(編集部) BASIC Englishで書かれた和文英訳を、室先生に添削していただきました。

『人の心は大体同じであると考えられるから、その所産である言語もそれがどこで発生しようとも、必ずいくつかの共通した特色をもっているにちがいない。』

[方針]書かれたBASIC 文は、できるだけ、それを生かして、直すところは最少限にした。いろいろな点で問題になる部分にはunderlineをした。ある文を批評するときには、他の文を書いた人も、それを見て自分の文を改良することができるように考慮した。

@ Men's minds don't seem to be warking great differently from one another. Therefore the languages, the outcomes of the minds, must have some common qualities among them, whenever and wherever they might have come out.

greatはmuchで、thereforeは、BASICではない。must b BASICではない。come outは少し不適当、thereforeをso thatに、mustの代りにhaveのあとにundoubtedlyを入れる。come outの代りに come into beingとでもしてみてはどうでしょう。

(b) It is possible to have the idea that we almost keep the same experience in mind. So it seems to me that the languages coming out of it have some common special marks in them wherever they come from.

It is possible to have the ideaはまちがいではないですが、少し大げさすぎるのではないでしようか。It may be 位ではどうでしよう。次のwe in mind の部分は原文の言いたいことから少しはずれているようです。our minds have been almost the same ever from the earliest times などとしてみてはどうでしよう。it seems to meはit is certainに、coming out of it はproduced by themに、special は削除。marksを使つたのは面白い。in themは削除。come fromはcame upの方がいいでしよう。このじには BASIC English以外の語は使われていませんでした。

© Every man seems to have almost the same mind <u>and</u> <u>feeling</u>. So it is certain that the languages <u>which</u> <u>have come from us will</u> have some common paints

which are think elecated quality

wherever they had come into existence.

And feelingはない方がいい。 which have come from us は、 of which men are the maker などとすれば、あまり上手とは言えないけど、 はっきりするのではないでしょうか。次の will は削除。

- ① It may be true that our way of mind is almost the same, therefore, the languages which we have made must have some common qualities wherever it was produced way ofはない方がいてしょう。 thereforeは BASIC になし。we have をmenにする。 mustは BASIC でないので、necessarily としてはどうでしょう。 it wasはthey wereにする。
- © It seems that almost all persons have the same minds and feelings, so languages, produced by them anywhere, must have some common paints.

same mind and feelings はただsame sort of mindとしてみてはどうでしよう。languagesの前にtheをつけ、produced by them anywhereはwherever they might have been producedとして、BASICでないmustの代りにhave の次に nodoubtを入れ、最後にamong themを加えると少し読み良くなります。

part of the ideas which mave in mind is common among everyone of us and that it is ideas which have made us produce our

languages; so any language used in any part of the earth has, without doubt, a number of ideas in common with the other languages.

The ideas which have in をとって、mindの前にourを加えa great part of our mindとしてしまう。 everyoneをallとする。andをsoに変える。BASIC ではproduce は 動詞として用いられません。 故にour languages which are mind's produce とでもしてはどうでしょう。それにつづけてhave clearly some common qualitiesとし、そのあとwithout our needing to take into account the places where they first came into existence. とでもしてはどんなものでしょう。

@ It seems to me that any man on this earth has almost the same structure of mind. So it is quite certain that languages, the produce of the mind, have some qualities in common with one another, wherever on earth they came into being.

これには欠点がありません。 mind の前に structure ofをそえたのは、非常によ い解釈ではないでしようか。

解釈という語が出たついでに言いそえたいことがあります。日本文をもとにして、英作文の練習をすることを、無価値であるとか、書があるとか言う人がいます。 しかし、はじめに書いたように、まず与えられた日本語をさまざまなcontextをimaginationによつて想定して、解釈し、言いかえを続けながらそれをもとにして、BASIC English

を考えて行くことは、けつして無益、有害などではありません。ただ、教師の能力の問題となります。特にfull Englishで書くことの練習に、もつばら和文英訳にたよることは教師の指導によっては、有害です。しかしBASICを用いて、伝えたいideaやthingsだけに注意を集中させる訓練をすることは、言語教育の基本となるたいせつな作業だと思います。この目的には、BASIC English以上に強力な用具はないと考えています。このことは、何度も言うように体験把握するほかに道はないでしよう。

さて、しめくくりにもうひとことつけ加えますが、以上の例に用いた BASIC 文は、一つを除いて全部 9月21日に辞書なしに、即席で書いてもらったものです。誌上添削などやったことがないので、ごたごたして読みにくかったことを許して下さい。

BASIC English と学校教育

山田初裕

BASIC Englishを学校で教えるのにいくつかの利点が考えられる。教師の犯しがちな最大の誤りは、考えすぎ"だ。自分の知識を全部出してしまいたいという強い誘惑にたえずかられる。、教えすぎ"の実害は意外に大きい。教えすぎた分だけムダになるのではない。それまで頭の中で整理されていた知識まで混乱させてしまう。Basic Englishを教える場合、教師は1語、1語を大事にして、root senseからmetaphorical useまで教えるから、1語を教えるのに1時間かかるという場合も珍しくない。教えすぎをおさえることが容易である。これが利点の第1。

教師ならいつも経験していることだが、自 分の教案通り授業が進むことはまずない。 ク ラスにより(おとなしいクラス、うるさいク ラス)、日により(暑い日、寒い日)、時間により(午前、午後)条件がちがえば生徒の反応はちがつてくる。それにハブニング。例えば急にサイレンや音楽が聞えてきたり、雷がなつたり、窓から小鳥や虫が舞い込んだり、犬が教室に入つてきたこともあつた。その時、生徒の騒ぐままにして、静かになるのを待つか、静かにするようにどなるか、その偶然をうまく使って(その状況を英語の表現に利用)、いつのまにか自分の軌道にのせてしまうか、教師の腕次第だ。

教育はもともと偶発的なものであつた。孔 子は弟子達と諸国を廻りながら、折りにふれ て自分の考えを話した。同じ質問に対しても、 時により、人によりちがった(時には正反対 の)答えをしている。キリスト、お釈 さま もみんなそうだ。折にふれ、必要に応じ教え る。これが教育の本来の姿だった。とすれば いろいろの偶然をどう教育現場に生かすかは 教師の大きな課題の一つだ。その点 BASIC English を教える時、例えば作文では、 1つの日本文に対し、3つも4つも、いや、で きるだけたくさんの英文をつくるようにして いるから、いろいろの角度から物事をみたり、 考えたりする習慣がついていて、偶然の利用 が上手になる。これが利点の第2。 又自分 の知つている英語をフルに使つて表現すると とは、創造の喜び″につながる。それは、遊 び"といってもよい。今の教育に一番欠けて いるものである。"遊び"といっても、今の 子供たちの受動的な遊び(例えばテレビなど) ではなく、creationにつながるもので、 これが、BASIC Englishの勉強で味わ えるということ。利点の3である。

私は BASIC Englishを憲法にたとえたい。一番初めに学習し、一番重要な法律は憲法だ。まさにconstitutionなのだ。憲法から始まつて、民法、刑法、商法etcそれぞれ専門領域に進んでいく。しかし、一度専門領域に入ったら憲法と切れてしまうの

ではない。たえず憲法に戻つて専門の法を考えないと、その法の理解・解釈に行きづまりがきてしまう。憲法は法の基礎であり、初めに学習するものだが、初歩の学問ではない。(憲法専門の学者もいる)BASICも同じようにbeginnerのためのEnglishであるだけでなく、英語を深く理解するためすべてのLearnerにとつて戻るべき原点なのた。憲法と同じく、基礎と高度なものが結びついているから、BASICは"やさしい"とも"むずかしい"ともいえるのだ。beginherにとつて"やさしい"のは、これ又利点の1つ。

そして、むずかしい^ル点は、BASIC の問題 というより英語自体のもつている問題ではないだろうかと思う。

BASIC English の危機意識

片 桐 ユズル

わたしにとって Basic English はなんであったかというと、まず第一にそれでなんでもいえるということよりは、切りすてごめんの気持よさであった。

同じ日本人どうしで、しかも日本語をつかいながら、意志が疎通しないことをなげいて中沢俊一さんは、「世界語というものを論文用、商談用、観光ガイド用、買物用といった程度にしか考えておりません」といっている。

でも、それがはたせたら、世界語としてりっぱなことだと私は思う。そこから先は、母国語だってむつかしい領域、安易にことばにたよれない領域だとおもう。そこは棚上にしておきながら、日常的実際レベルでは仲よくやっていけるはずだ、というのが論理実証主義的態度だと私は思った。

そんなことで「コミュニケーション」が成り立ったとは思わないとか、そんなものは 「相互理解」の名にあたいしないとか言う人 がいたら、その人にとっては100 % つたわるととだけが「コミュニケーション」や「相互理解」で、70%とか50%つたわることは非・コミュニケーションであり、非・相互理解ということになる。こういうのが二値的反応だ。

中沢さんを100%に理解する人がいるとは思えないから、中沢さんは「マッタク理解されない」だからとてもさびしいはずだ。また、「(100%) 理解してくれた」とおもっても、100%ということはありえないから、それは、中沢さん自身のおもいこみにすぎず、おそかれはやかれ、「裏切られた」とか「幻滅した」というととになるたろう。

BASIC Englishはいろいろなものを切りすてることで成立した。たとえば動詞についてはいうまでもない。多くの批評家は英語の本質は動詞にあるのに、BASICではその力強さが失われたという。しかし、その力強さというものが国際的相互理解のために本質的に必要だとはおもえない。そして、その「力強さ」ということは別のことばでいえば「喚情的」だということだ。

すでにベンタムが言語の記述的用法と喚情 的用法を区別して、「language]is used to convey information purely or information for the purpose of excitation. He advocated the neutralization of emotive expression by the use of two more neutral words in place of one, e.g. pecuniary interest in place of avarice, sexual desire in place of lust. " (J.C.Catford "The Background and Origins of Basic English." 『肉欲』と一語でいったときの、オゾマシイひ びきが『性的欲求』では消えてしまう。動詞 で一語でいっていたものが、動作と名前と方 向を示す数語に分けていわれることで、たし

かに喚情性はなくなるだろう。

第一次大戦の経験から世界平和の理想へと 努めたひとたちが、すぐに第二次大戦への危機を感じるようになったが、いろいろ気になる徴候のひとつは、大多数のひとびとが「ことばの魔術」にひっかけられていることであった。Ogdenの BASIC Englishも、KorzybskiのGeneral Semanticsも、ことばの魔術に対する防衛ということを重要な役割としてもっていたとおもう。ローズベルト大統領の雄弁もネコのゴロニャンにすぎないといったStuart Chase ほどわれわれは単純ではないが、そういわせた危機意識の原点をあきらかにしておきたい。

(Aug. 25, 1980)

BASIC English & Metaphors

升 川 潔

との夏、連続して2週間George Lakoff 教授のmetaphorsに関する講義をきいた。
(詳細は、今秋出版予定のG. Lakoff & M. Johnson: Metaphors We Live By, 1980, The University of Chicago Pressを参照) G.Lakoffといえば、理論言語学の世界では、生成意味論の旗頭の一人として著名だが、今回の講義はこれまでの彼の理論から180 度変つて「人間の経験や概念が、言葉の表現にどう反映しているか」ということを、隠喩(metaphors)を専ら例として述べたものである。大まかにいつて2つの点で面白ろかった。

その1. 我々の経験や概念は、植物の導管のように、いくつも管になつていて、その中を言葉が運ばれて、ある表現になると考えている。例えば、人生を旅にたとえるが、それは恋愛についてもいえるし、夫婦についてもその他の現象についてもいえるという。

例えば、come to an end, we're at a crossroad. (離婚するかどうかの決断がいる)we've come so far. (老夫婦の感概?)

その他Time is moneyは「時間をお金にたとえている」表現で、wasting your time, running out of your timeもお金を使り経験があつて始めていえる。又、The time will come when いっぱんでは、 time to come, Those happy days went by quickly など時が移って行くことを表わす隠喩である。言いかえれば、我々は隠喩の中で言葉を使っているといってもいいし、頭の中で整理された経験や概念に言葉をのせて使っているといってもいい。これは、今までの言葉→意味の解釈 という方向を逆にして、経験→言葉の解釈 という方向になっている。

その 2. 隠喩はイメージである。

Every boy put up his hand. ... (1) Each boy put up his hand...(2) の2つの文を読んで、頭の中にimageを作 ると、(1)では 生徒全体が手をあげている絵が 浮かんでくるし、(2)では、余り多くない生徒 がいて、その1人1人の手が上がっているの を確めている自分が浮んでくる。このように、 言葉をきいたり、読んだりした時に頭の中に (文字でなく) imageが浮ぶことが、言葉 の習得には必要で、文字から文字への機械的 な練習では言葉を習っていることにはならな い。GDMでは、SEN-SITのSITの方の おかげで、生徒の頭の中にimageを作らせ ることでSENの方を教えている。経験させる ことで、言葉を教えている。隠喩に例をとれば、 give a push, give a turn to, give a book to~ という実経験の延 長で 本の代りにpushやturnを「give」 しているのだ。又、have a rest, take him to the station, put him to deathも、それぞれ「手にしている」

「上の方へとる」「どこかへおく」 という、 人間にとって赤ん坊の時からし続けている最も 単純で基本的な動作の経験があるから、容易 に比喩表現に延長できるといえる。 The play is over・も over the mountain があって始めて成り立つ。「この 茶番劇も峠をこえた」というではないか。

BASIC Englishの「不便さ」は、このような我々の経験の導管によつて支えられている。逆に言えば、言葉をimage化できるように、よくsensitivity をみがいて英語という言葉に接する必要がある。

xxxxxxxxxx

G D M etc.

enemenene

G D M と 私

東 山 永

私は、今、GDMなしの自分は考えられない。1952年秋以来、まことに多くのよいものをGDMから得たことを有難いと思っている。今では多くの英語教師がGDMについて、ある程度知っているが米国留学から帰国直後の吉沢先生のセミナーを受講した人にとっては、GDMが新しい教授法などというおだやかなものではなく、たた驚きであり、殆んどの人がそっぽをむくか、ひたすら抵抗したのではないだろうか。はじめはひどく抵抗を感じたのに私は気がついたらGDMのとりこになっていた。

GDMで教えるのが面白く、楽しいのである。それは主にGDMの本質と BASIC Englishにあると思う。 難かしいのである。適切なsituationを考え、作るのが大変であるし、そのsentenceをそれぞれの語のroot senseを捉えていなければならない。そして、容易にget できないものをgetしたよろとびは、次に語、文の形、意味の展開、metaphor へと続くのである。それは英語だけでなく、日本語、ことば全体に対する意識が高まり、感覚が養われることになる。

GDMでの大事なことのひとつに生徒の発言を重んじるということがある。これは教師

自身の頭を柔かくすることでもある。ひとつ のものをいろいろの角度から見るようになれ ば、今迄見えなかったものが見えてきて世界 が拡がっていく。

G D M がこんなに面白いからやめられない 例をひとつ 経験の中からあげてみよう。

EPII P. 83 The earth is a great body. Its weight is eighty—one times the weight of the moon. $2 \times 3 = 6$

私にとって、この難かしい数学の内容を自分のものにするのに数年かかった。その後、中学生のクラスで、バスケット3個それぞれりんごが5個入っているsituationを示した。生徒はこれをsentenceで数行書き、Three times five is fifteen. $3 \times 5 = 15$ で結んでいた。

"IとYou"と わたしの中に

片桐 ヨウコ

GDMを知って、無我夢中で教え始めた頃どんなメチャクチャな授業をしたか、今思うと冷汗が出る。よく生徒の夢を見た。いつも生徒の口のかたちがまず出てくるのだった。くちびるのかたち、歯ならび、そして声から生徒をおぼえた。そして目。10才の少女も、40才のおじさまも、そのきらめきは同じように美しくわたしの心をとらえる。それらのまなざしに支えられて授業をすることのしあわせを

知り、ひとりひとりと見つめ合うことの大切 さを身にしみて感じる。これらの全部がはじ めの出発点、IとYou にもどってくる。そ れを教わった時の吉沢先生の姿かたち、声と いっしょに、わたしの中にいつもある。

GDMにおける1回性ということ

山 田 和歌子

吉沢先生がクラスの準備をされる時に、決 して以前に使った材料を使わず、またあらた めて新しく絵等を書き直されるということを 誰かから聞いたことがある。その時は「やっ ばりすごいなあ」と思ったが、なまけものの 私は1ついい方法を見つけると、それにしが みついていたり、何度かした所はあゝあれは いつものようにやればという安易な心で続け ていた。今夏のセミナーではどうしても自 分の当たつたitemを介して相手と気持よく communicationできず、自分の不勉強 のせいと痛感するものの、もう1つどうした らよいのかわからず、重い心のまま最終日の discussion の場にいた。ぼーっとした頭 の中に、「1回性」とか「もとから考える。」 とか「何日何時のレッスンはくり返せない。」 という誰かの発言が急にとびこんできては っと気がついた。いつも初めにもどっている ·のはEPの英語の内味だけではないのだ。そ れを伝えようとする私の姿勢にもそれが必要 なのだ。どうして今までこんな大切なことに 気づかなかったのだろう。何日何時の"what" のレッスンは、教室、相手の状況、私の心そ の他すべての状態がその1時間限りのもので、 決してくり返されるはずがない。吉沢先生が 1つのitemを教える時は必ず初めからその 所までEPを又読みなおしてみると言われた のはそういうことなのだ。そのたびに新しい 絵やプランを作ることで、その年のその日に おける自分なりの"what"の表現ができ、

又新しい発見があるだろう。

How do you make your learners get used to the forms of questions?

— This is my question!
Sayoko Meyer
(20オ~70才位までの女性が

"When did you get your blouse?"

とクラスの終了後 一人の learner が私

私のlearnersです)

にquestionです。 その日私は新しい プラウスを着ていたのです。私が答えたあと She said,"I will go there." 彼女は私のブラウスが気にいったらしく自 分もその店へ行ってみようと思った様でした。 E.T.P.ではP.30 で初めてquestion がでて、P.41でdoes did P.47でdo がでてきます。which(P.48)who(P.58) when(P.65)How,why(BookⅡ)の疑 問詞を除けばほとんどのquestion forms が言えるようになります。あとは上記の疑問 詞のword senseを導入すればよいわけ です。ところがそう簡単にゆかないのが私の クラスの現状です。私のクラスでは、P.30 OWhat is this? Is this a~? etc.のQ.を何時間かやったあと、 小さな ものを手にもってかくしてWhat is in my hand? 1人のlearnerを前に出し T, I will give ~~ what? What will I give to you? Will I give ~~ to you? giving LT What am I giving to you? Am I giving ~ to you? 等とやりま す。他の既習の動詞も入れ、その後絵を使っ Tpractice & Pbst, do, does, did がでてくる時も同じような要領でdid までもってゆきます。そこで、learners は一応疑問文のルールを会得するのですが、 その後他の疑問詞が出てきたり新しい動詞が でてきた時、会得したはずのルールをなかな

かapply させるととができません。それは questionを特別扱いして機械的なおきか え練習に陥っていた為ではないか、G.D.M. で 最も大切な言いたいというmotiveを起こさせるsituationを提供するのを怠たっていたのではと思いはじめました。それも常々提供しないとだめだと思います。 慣れは必要だと思うのです。でも毎回新しいブラウスを着てゆくわけにはいきません。 How do yoy make your learners get used to the forms of questions?

GDMは子どもと教師の橋渡し役

鈴木広志

今のぼくの心の中には、自分の中学時代のことがほとんど残っていない。小学校やそれ以前のことは確かに残っているのに。心を閉ざし続けた日々。それがぼくの中学時代だった。置きざりにされている自分の中学時代をとりもどしたい。これが自分が教師になった出発点だったのではないかと、このごろふと思う。ときどき生徒と二時間以上しやへの続けることがある。自分の中の空白の部分が埋まるような気がする。

ぼくにとってGDMは、子どもたちの世界にはいりこむ「武器」だ。英語の教師ではあるけれど、ぼくにとつて英語はひとつの橋渡しの手段だ。それを教えてくれたのがGDMだった。

ひとつのことを言うのでも、すんなり言ってしまう子もいれば、苦労して苦労してやっと言える子もいる。苦労が大きい子の方がその子の中にこちらははいりやすいと思う。 労している子は、こちらにその子の全エネルギーをぶつけているのだ。そのとき、こちらもその子に向けてエネルギーをぶつけてあげたい。お互いのエネルギーがかみ合ったとき、 その子の心に近づけた気がする。だから、余 りエネルギーを使ってないようにみ**え**る「で きのいい子」が、ぼくは苦手だ。

生徒が発するエネルギーでとちらが身動きできないような授業がしたい。そうなるように、生徒をとことん追いとむような授業をしたい。これが「中学時代が空白」な英語教師の本音なのだと思う。

With Love from Singapore

根古谷 常雄

英語教師になって19年が過ぎ、いよいよ大台にのる年。何とか、英語国で生活をし、自分自身を英語に慣れさせなくてはと考えました。旅行ではなく、生活することによって自分のことばとしての英語を体得したいのです。勿論、海外生活をしている子ども達の役に立ちたいこともあります。こうした一石〇鳥かのねらいて、外務省から海外長期研修出張の辞令をもらいシンガポール日本人学校で三年間勉強します。

英語は公用語の一つとして広く使われていて、どこへ行っても英語で大体通じますが、たまに英語では全然通じない人に出合うことがあり、ことばの面白さや便利さをつくづく感じさせられます。多民族が住んでいますので、多言語が話されています。そこには、何とかして他人を理解しようという気持が相互に働きます。そのせいか、一般に親切な人が多いのです。

いろいろな場面で、大変近代化されている 面もあり、またある面では大分遅れていると 思われることがあり、とても面白い国だと思 います。無意識のうちに日本と比較してしま うことが多いのですが、日本よりずっと進ん でいる点もかなりあります。

シンガポール日本人学校は、スクールバス 40台で、毎日の児童・生徒の登下校をさせて いる大きな学校です。在校生徒数がどんどん 増**え**ていてもう限界です。明るく、素直な生 徒が多いです。たくさん勉強して帰ります。

GDMセミナーと私

岩坂正雄

「たんな、意味論てえのは何ですかね。……」ではじまる一冊の本「意味論入門」が、私とGDMとのかかわりのきっかけであった。この本の著者である片桐さんに出あい、YMCAで初めて、GDMで子どもに英語を教えてみようという試みがなされたのが1966年(大阪、土佐堀)であったと思う。

教師の研究活動を広めてゆくことにかかわったのが、1967年から六甲、そして1968年からの御殿場へと発展してきた宿泊セミナーである。セミナーの裏方をつとめてきたが、会場の 準 備、 募集、プログラム運営など事務局ごとを10年以上もつみ重ねている中には、面倒なことも多かった。デモンストレーショ

ンのための生徒の確保、子連れ受講者のための託児、禁酒原則の会場でいかにスピリットの効用と昂揚を工夫するか……など。でもこのような面倒がちっともわずらわしさにならなかつた理由は、GDMのもつ思想性への魅力と、この運動を支えている人びととの交わりであったと思う。吉沢さんという存在を中心に、どこへよばれて行っても下にも置かないもてなしを受けるような人が、スタッフの一員として、なりふり構わずどんな雑用でもひっかぶって走りまわるのは、ひとつの教育運動を担っているボランタリズムの姿にほかならない。思想の支えなしにこんな生き方はできない。

裏方の雑用しかできなかった私だが、いささかでもこのセミナーに貢献できたことといえば、「GDMは発音指導をおろそかにしている」という誤まった批判に対して、「教師の発音を良くする」ことで応えるためが、中郷さんグループの発音クリニックをご紹介できたことぐらいだろうか。

活動 報告(1979年9月~1980年8月)

արթ-փ-փ-արթ-փ-

〈東日本支部〉

9月29日(土) 東京教育会館 総会 10月27日(土) 東京YWCA I.Teaching:of久保田順子/ when(conj.)佐藤由美子 I 「TEFL/について」升川 潔

- 11月24日(土) 東京YWCA I.
 Teaching:what(interrog.)
 服部悠子 I.Book Review:
 「子供たちの復讐」(本田勝一編)安西
 聖雄
- 1月 26日(土) 区立赤坂中学校
 I.Teaching:「比較級」箕田兵衛 I.
 「Seem/Cついて」升川 潔

く西日本支部>

- 10月28日(日) 日本イタリア京都会館 I.Demonstration:one, the other松井尚子/why, because 中沢俊一 I.Lecture: "A bridge between Basic English and full English—one of the teaching ways of EPIII for the intermediate students"小高一夫
- 11月18日(日) 大阪YMCA土佐堀校 I. Demonstration:was 江口 いく/here,there石川 孝 II. Lecture:「私の受けた英語教育——

- 2月23日(土) 杉並産業館 I.
 Teaching:taking 黒沢八重子 I.「BASIC Englishから wider Englishへ」室 勝
- 3 月17日(土) 横浜アカデミー I. Teaching:have to金原勝美 Ⅱ.Report:「BASIC Words の 表からーerについて考える」黒沢文子
- 3 月 28 日(金)~3月 31日(月) YMCA 六甲研修センター

GDM Spring Seminar,1980 (東日本西日本合同)

- 4 月19日(土) 東京YWCA I.Teaching:here, there 大塚教子 I.「EP P.50 までについて の問題点を話し合う」
- 5月17日(土) 東京YWCA I.Teaching:see 黒田文子 I. Question Box— BASIC Englishについて 牧 雅夫
- 6 月 7 日(土) 日大二高 公開講演会 I・英語ワークショップ 室 勝 II・ GDM そのポイント 吉沢美穂 III・G DM による体験授業
- 7 月12日(土) 杉並産業館 I. Teaching:was西田好江 I. 「教育について考**え**る」安西聖雄
- 8 月 18 日 (月)~8 月 22 日 (金) 御殿場 Y M C A 東山荘

GDM Summer Seminar,1980 (東日本西日本合同) ダイレクトメソッドをめぐつて J石川重 俊

- 12月16日(日) 神戸エンカウンタースク ール
 - I. Demonstration:over, under 植田喜代美/before, after (conj.)原田 弘 I. Book Review:「日本人の脳」(角田忠信著) 石井昌子
- 1月20日(日) 日本イタリア京都会館 I.Demonstration:or片桐ユズ ル II.Silent WayのDemonstration:the バーバラ藤原
- 2月24日(日) 大阪YMCA土佐堀校
 I.Demonstration:here,
 there原田 弘/before,the
 other Ns中沢俊一 I.Lecture
 : "Values Clarification"
 Michael Cox
- 4 月 27 日(日) 大阪YMCA土佐堀校 I. Demonstration:where (rel.)斉藤直美 II. Lecture: "What is good teaching?" 片桐ヨウコ
- 6月21日(土) 日本イタリア京都会館 I. Demonstration:of 川上い と子 II. Lecture:「ofについて」 片桐ユズル

編集後記

BASIC English 生誕50年。幾多の風雪にもめげず、しなやかに生きている中年。 初めてきく吉沢さんからの昔ばなし。 GDMとBASIC とのデリケートな係わりがわ かって面白い。

又、平素は書き取ることの不可能な「ああも言える、こうも言える」という室方式が、 これまた初めて文字になった添削教室。

さらに、さりげなく書かれたその他凡ての論文の中に、かならず啓発されるものがあるのは何故だろう。生き生きとした仲間達の中にあって、今回も無事に第82号の編集を終ることの出来たしあわせを噛みしめている。(小高)

------ お知らせ -----

BASIC English 50周年記念講演会

秋も深まり、皆様にはいよいよ御清栄のことと御慶び申しあげます。

さて、本年は、850語からなる BASIC English が、C.K. Og dn によって1980年に発表されてから50周年にあたります。

つきましては、その歴史的変遷をふりかえり、その思想的背景・文化的意義を辿り、更に日本という風土に何をもたらしたかを改めて考えるために、下記のように、「BASIC English 50 周年記念講演」を催したく存じます。 公私ともに御多用とは存じますが、ぜひ御出席下さいますよう御案内申しあげます。

1980年10月

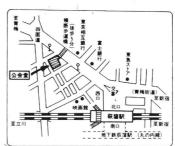
意味論研究会

記念講演 I 「BASIC English の思想」 鶴見 俊輔 (評論家)

II 「我々にとっての BASIC English 一日本に何をもたらしたか一」室 勝 (元早大教授)

1980年11月22日(土) 午後2時~5時 杉並区立公会堂 3階 大集会室

事務局 〒162 東京都新宿区新小川町2-10 江戸川アパート28 ☎03-260-6927 安 滕 + デ



- 入会申込先:

★G D M英語教授法研究会東日本支部事務局

〒154 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19 吉沢方 112 03 (429) 5 9 2 9

★G D M英語教授法研究会西日本支部事務局

〒657 神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1 松蔭女子学院大学 小高研究室 11.078 (882) 6122

- 1. 年会費(毎年9月~翌年8月まで)3,000円 英語教育に熱意のある方ならどなたでも。
- 2. 月例会. 公開講演会, 夏期・春期セミナー等 諸活動の案内, 出版物の案内, 英語教授法通信等お送りします。

·書 店一

GDM の出版物とBASIC English の図書を多数取揃えております。

スクールブックサービス(株)

〒160 東京都新宿区 高田馬場 1-26-5 F.I. ビル 4 階 刑(03)200-4531